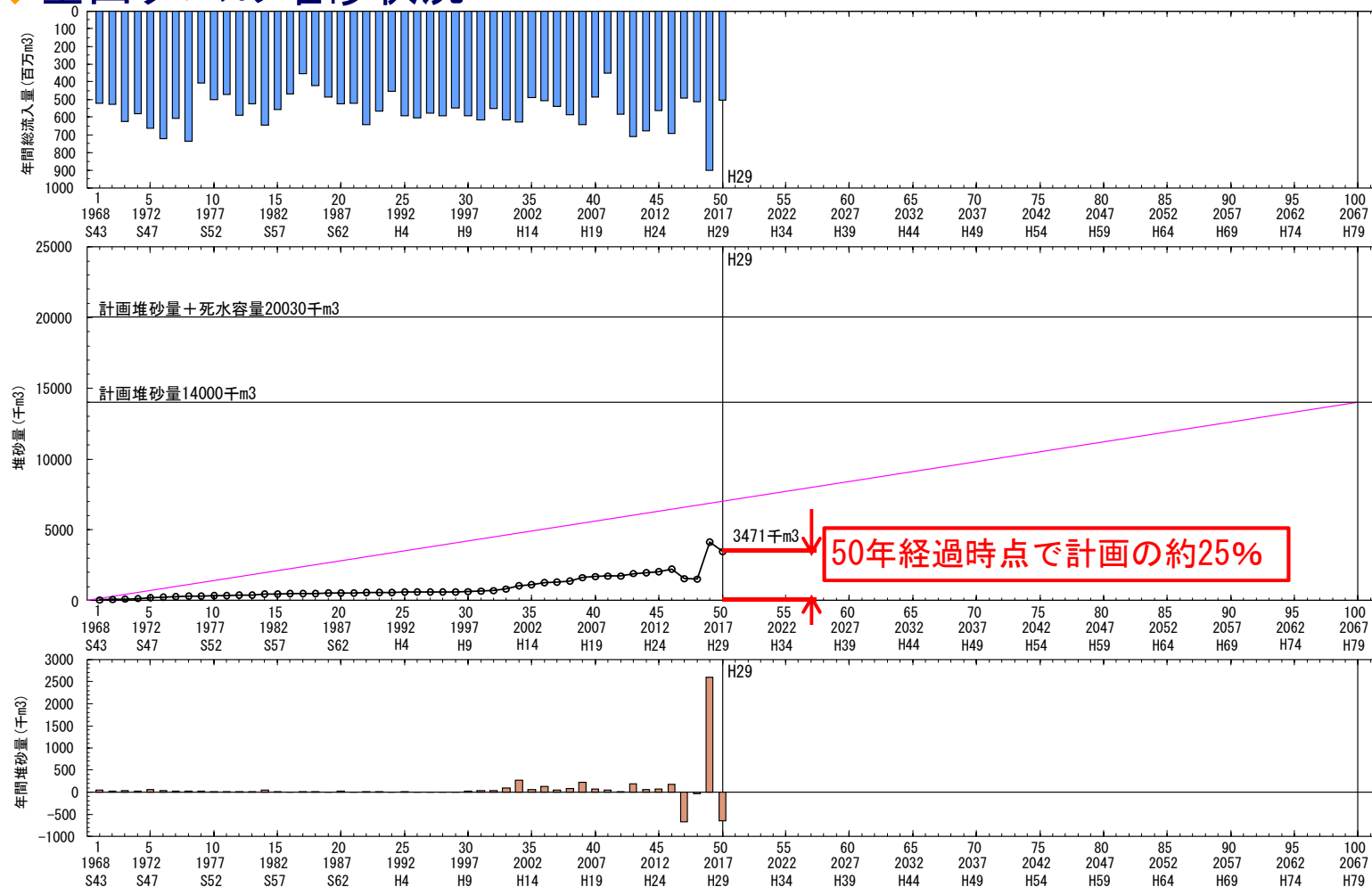


4. 堆砂

金山ダムの堆砂状況

- 金山ダムの総堆砂量は、平成29年現在(50年経過)で約347万 m^3 であり、計画堆砂量(1400万 m^3)の約25%である。
- 平成28年の洪水に伴い、過去最大となる約260万 m^3 /年の堆砂の増加が生じた。
- 実績比堆砂量は148 m^3/km^2 /年であり、計画(300 m^3/km^2 /年)を下回る傾向である。

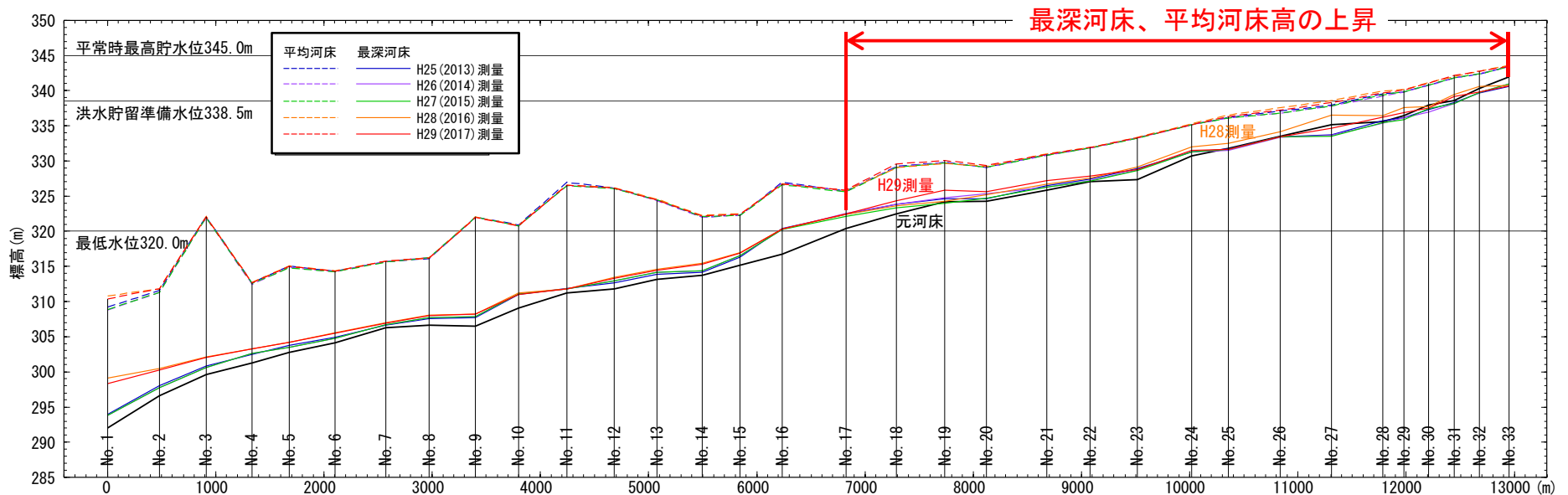
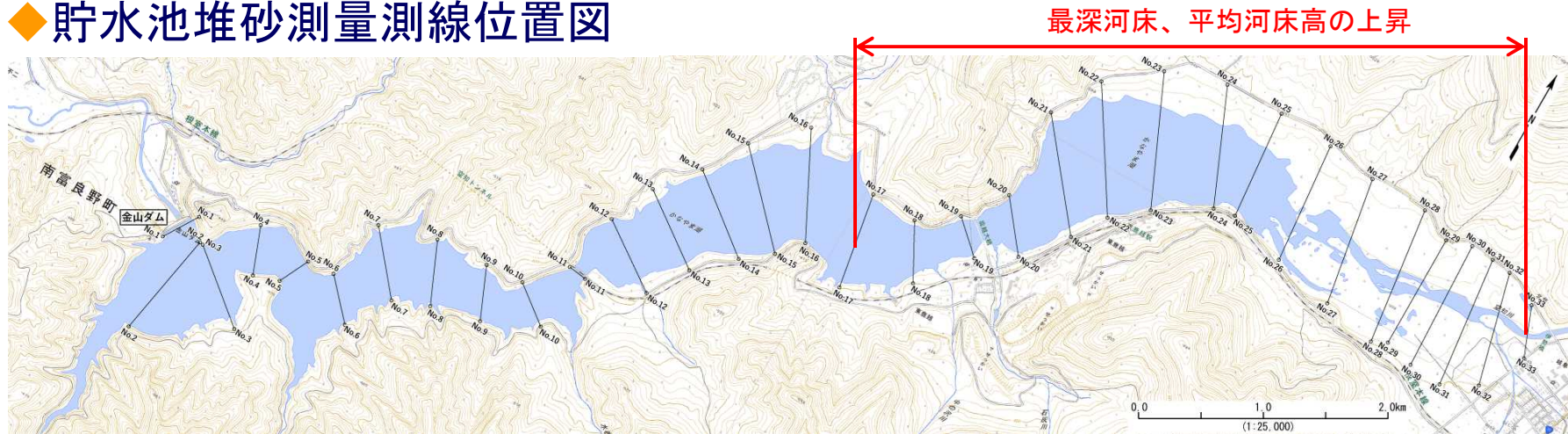
◆金山ダムの堆砂状況



堆砂測量縦断面図

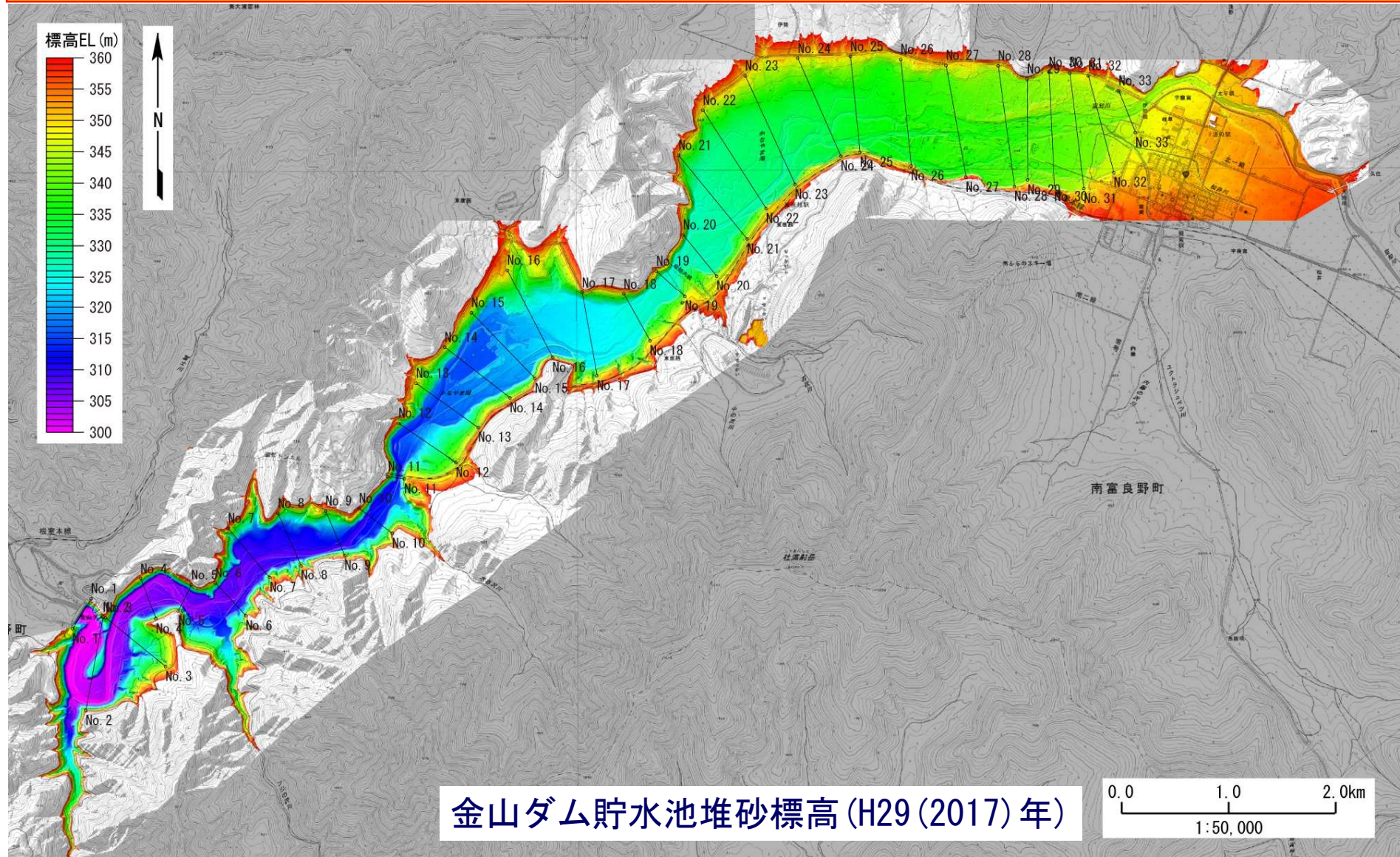
対象期間の堆砂測量成果から、貯水池の6.8km (No. 17) ~ 13.0km (No. 33) の区間で平成28年の洪水後に最深河床高、平均河床高の上昇が認められる。

◆貯水池堆砂測量測線位置図



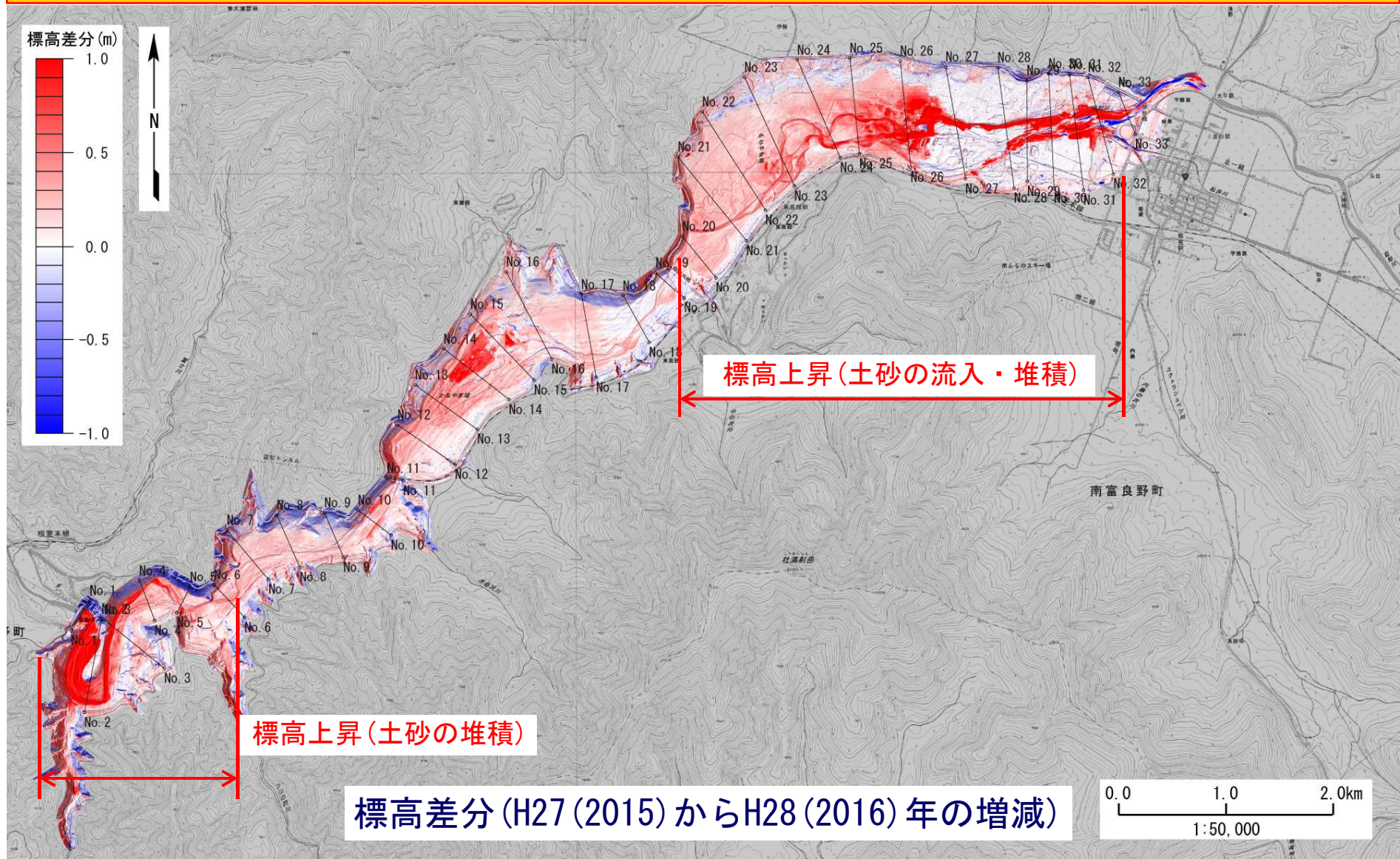
詳細な堆砂状況の分析①

金山ダム貯水池の堆砂測量において、平成27年、平成28年、平成29年は貯水池全面でナローマルチビーム測深機による測量を実施した。



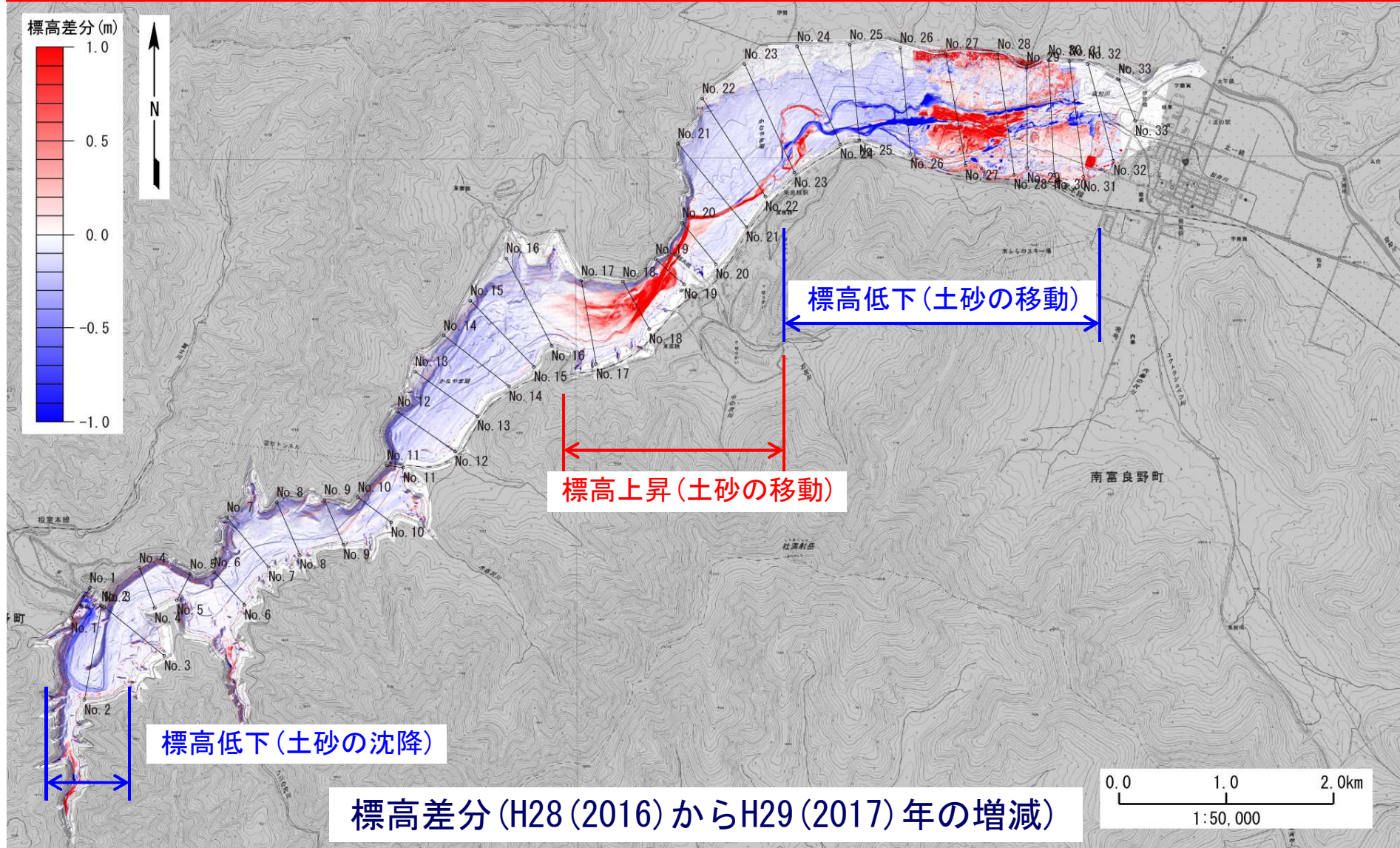
詳細な堆砂状況の分析②

平成27年と28年の標高差分から貯水池流入端およびダムサイト付近で標高の上昇を確認した。平成28年洪水に伴い流入した土砂の堆積によると判断する。



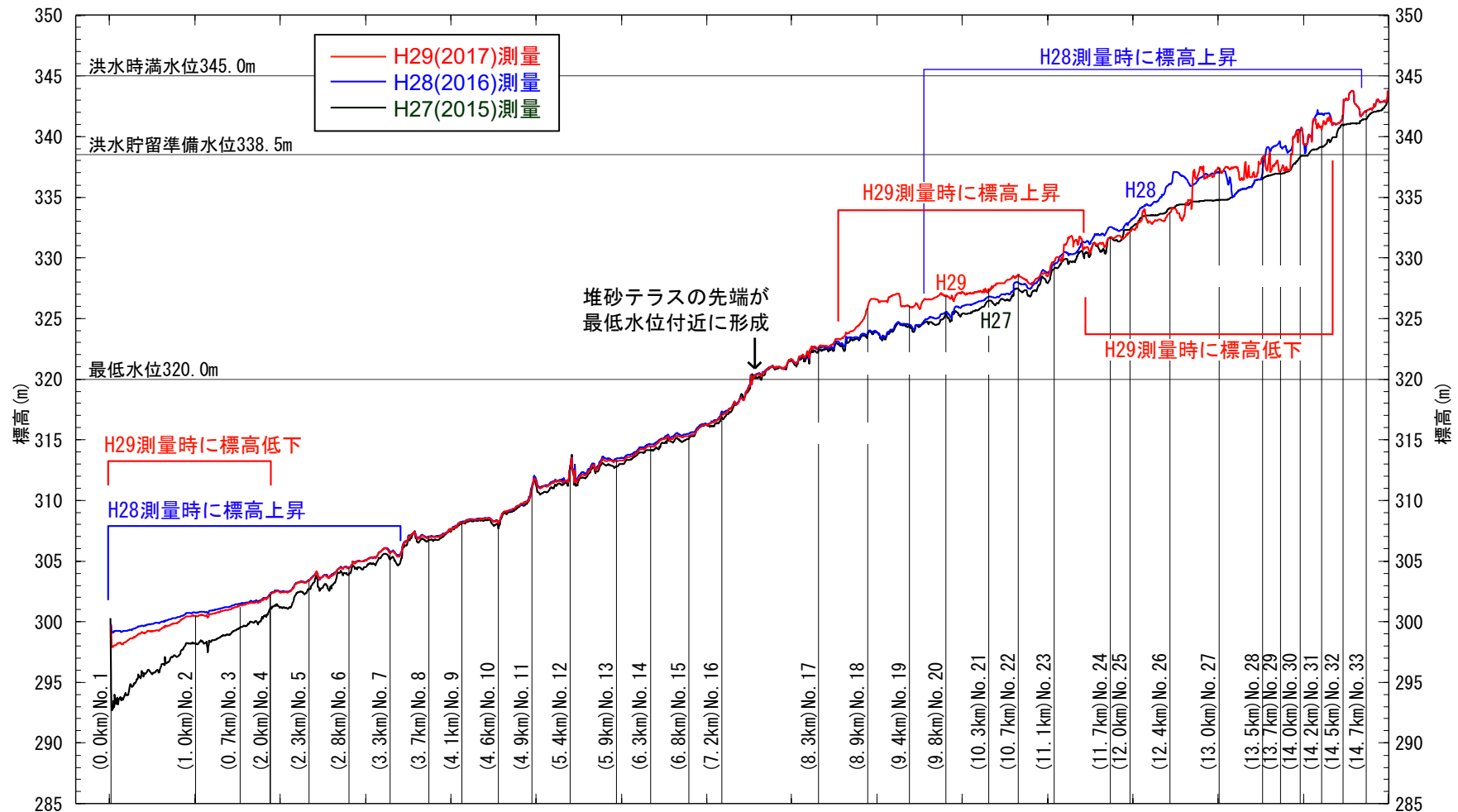
詳細な堆砂状況の分析③

平成28年と29年の標高差分から貯水池流入端最深部の標高低下、貯水池中央部での標高上昇を確認した。また、ダムサイト付近で最深部標高の低下を確認した。



詳細な堆砂状況の分析④

- 平成28年の測量で貯水池流入端及びダムサイト付近に最深河床高の上昇が認められ、平成28年の洪水に伴い流入した土砂の堆積によると判断する。
- 平成29年の測量で貯水池流入端での河床高の低下、貯水池中央部での河床高の上昇が認められ、貯水位の変化に伴い土砂の移動が生じたと判断する。また、ダムサイト付近で標高低下が認められ、緩く堆積した土砂の沈降により標高が低下したものと推定する。



◆堆砂のまとめ

- 平成29年現在で50年が経過し、金山ダムの総堆砂量は347万 m^3 、堆砂率が約25%となっている。
- 平成28年の洪水に伴い、過去最大となる約260万 m^3 /年の堆砂が生じた。
- 平成28年の洪水に伴い貯水池内に流入した土砂は、その後の貯水位変化に伴い貯水池内で下流側に移動していることが確認された。
- 実績比堆砂量は148 m^3/km^2 /年であり、計画（300 m^3/km^2 /年）を下回る堆砂傾向となっている。

◆今後の方針

今後も継続的に堆砂測量を行い、堆砂の進行を監視する。